

2017年度 若者×ツナグバ 事業報告

2018年4月

特定非営利活動法人 ほしはら山のがっこう
特定非営利活動法人 三次おやこ劇場
府中町地域活動青年団体 志楽蝶
公益財団法人 マツダ財団

公益財団法人マツダ財団 御中

「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名:特定非営利活動法人ほしはら山のがっこう

活動名:大人の林間学校

活動の内容(日時、場所、目的、内容、参加者等 個々のプログラムごとに箇条書きでお願いします。)

第1回 6月24～25日<仲間づくり・2回目の企画>6名+サポーター3名

- ・十輝企画の仲間づくりプログラム(タイムライン・コミュニケーションゲーム・料理対決他)
- ・次回の企画・今回のふりかえり

第2回 7月15日<1回目に自分たちで企画した内容を実施(仲間づくり・実行力)>6名+サポーター3名

・夜の大人の林間学校(企画は、焚き火を囲んでBBQ・花火・きもだめし → 実際は花火は語らいを優先したいということになり急遽やめる)

- ・ふりかえり

第3回 9月23日<大きな自然を体験・仲間づくり・4回目募集プログラムの企画>6名+サポーター3名+ほしはら参加者17名(計26名)

- ・吾妻山(比婆山山系)登山と交流
- ・第4回の企画

第4回 11月3日<自分たちのたてた募集企画を実行・実行力・仲間づくり>4名 参加者約60名

- ・イベント実施をひろしま森のおもちゃ協会といっしょに行う。
- ・10テント出店 ・3アーティストステージ ・2展示
- ・1テントは大人の林間学校が出店(焚き火カフェ)し、ステージと夜の焚き火交流を担当。

実施に伴う効果

対話、自然、地域をつなぐ場が、「若者×ツナグバ」をきっかけに生まれることを期待して「大人の林間学校」の企画を行った。

1年目の林間学校には、毎回6名ほどの「若者」が参加した。参加メンバーは様々な背景をもっており、しかしこのサードプレイスではフラットな関係の中、新しい関係性を結ぶことが出来たのではないだろうか。

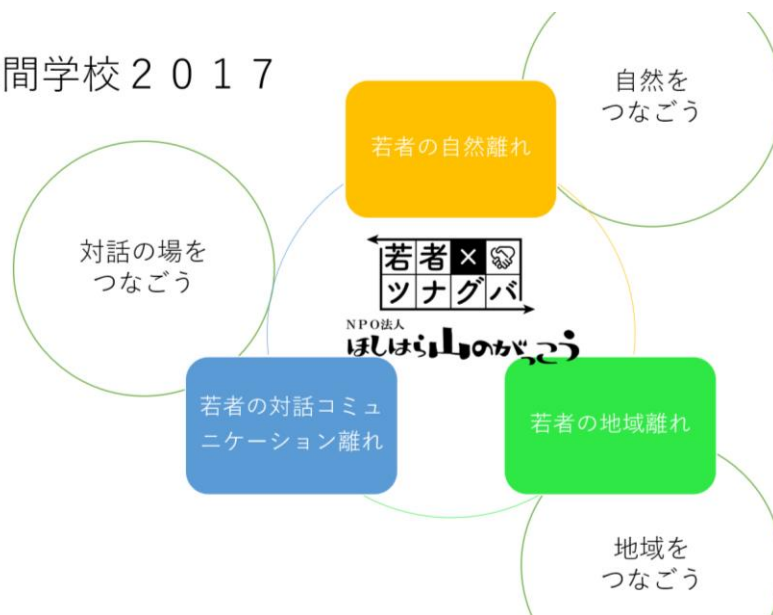
ふりかえりの中で、焚き火を囲む時間が対話の場として心地よいという意見が多くあがった。

「焚き火」の持つ「場」としての力を、今後に活かしていきたい。

また、企画実施を2回行った。今回は人数も少なく、それぞれが忙しく準備時間も取れない中での実施であり、フォロアーの動きが多かったが、企画を実行することが出来た。

今の若者の「忙しさ」がどこからきているのか、聞き取ることができなかったが、今後の宿題としたい。

大人の林間学校 2017 報告



若者の自然離れ／子供時代に自然の中で遊ぶ機会がないまま青年期を迎え、自然に関心はあるが「どうしたらいいかわからない」という声を聞く。例えば、ナイフを使う、火を焚く、暑さ寒さをしのぐ、凧を揚げる（風を読む、工作する）、虫と付き合う、などこれまで「遊び」の中で得てきた自然との関係の身体感覚や感性を磨くチャンスになかなか恵まれず、一方で知識は大変あるというアンバランスな若者が増えている。一方、どんなに技術が進化しても私たちの暮らしは自然とは切っても切れない関係にあり、自然に生かされている存在である。自然に飛び込み、自然の中の自分の存在を学ぶ機会は、すべての子供・青年期に必要である。

若者の地域離れ／地域行事に参加する機会があまりないまま青年期を迎え、青年団などの居場所がなくなった「地域」という場所をどう捉え、どのようにデビューしたらよいか戸惑っている若者に会うことが多くなっている。自分を取り囲む身近な社会の人々に関心を持つ機会もまた、人材育成に欠かせない。

若者の対話コミュニケーション離れ／配慮ある軽い会話にとどまり、商店や公共交通などでの人と人の対話を学ぶ機会が失われ、また深い人生観や哲学を語り合える仲間づくりや意見のぶつけあい、世代間交流をする機会が少なくなっている。SNSでは親しみやすい話題を交わし、また同じ系統の人の話題や情報に出会うが、多様な価値観や考えに出会いにくい。対話を通して様々な考えの中での自分の意見を深めたり、人生を支える出会いや言葉に出会う機会を青年期までに持ち、それからの人生のくじきや失敗を糧にできる土台をつくるチャンスが必要である。

苦勞した点、今後の課題、発展の方向性など

苦勞した点

- ・若者との連絡
- ・若者の忙しさ

今後の課題

- ・大人の林間学校を若者自身が企画する未来ビジョンを描いており、リーダーを見つけたい
- ・焚き火スペースの充実
- ・より深い仲間づくり
- ・関わられる内容を増やす

発展の方向性

- ・大人の林間学校を若者の手でつくっていく未来
- ・焚き火を囲む若者の場づくり

[注] 本活動に関する資料、報告書等がありましたら添付してください。

2018年 4月 23日

公益財団法人マツダ財団 御中

「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名:NPO 法人三次おやこ劇場

活動名:マツダ財団 新規若者支援・KADOYA 10周年記念 事業
KADOYA発 2017 FolksTeaBooth

実施に伴う効果

ライブと石窯作りから、転居することになったKADOYA。
想定もしていなかった引っ越しによって、あたらしい地で「DASAIYA」となり、新たにスタートしました。てんやわんやの引っ越し作業の中で、新たに若者が協力者となってくれました。
若者とのつながりの広がりには驚いています。
若者ツナグバ「FolksTeaBooth」稼働により、また若者とのつながりが広がることを楽しみにいっそうはりきって活動したいと思っています。

苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

転居により、石窯作りとカフェづくりが大幅に遅れてしまいました。
地下水漏水の調査や修理の時間がたいへんかかりました。特に今年の冬は水道管破裂により、少しでも水の出るところは、修理が大変遅れやっと4月末に修理完了しました。
保健所と、消防署の許可をとり、若者がつどう石窯のあるカフェの完成と稼働いたします。
この苦労した間に広がった若者とのツナガリをさらに広げていきたいと思っています。

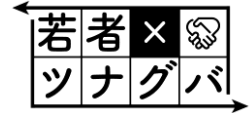
みんなでDIY！

裏の工場跡は広く多目的で使えるスペースになる。カフェだけでなくライブ会場をつくりライブや人形劇を開催。

若者だけでなく、赤ちゃんづれの子育てママパパも気軽に来ることのできるカフェをつくろう！みんなの力で、膨らみ続ける夢を実現します。

[注] 本活動に関する資料、報告書等がありましたら添付してください。

マツダ財団 新規若者支援・KADOYA 10周年記念 事業 KADOYA発 2017 FolksTeaBooth



① ボランティアのパパに、修理を兼ねてウッドデッキに屋根をつけてもらい、気持ち良い風のふく庭で「夢」を語りあったことがきっかけとなり、「石窯つくって、オープンカフェに!」「ワカモノと子どもと高齢者をツナグバに!」 KADOYA10周年記念として、子育てスペースにワカモノをつなごうとスタートしました。

② 石窯の材料 粘土50袋川の石300個採掘 8/26 (土)

ワカモノ中心に12人のボランティアのみなさんで、スコップやツルハシをかついで山の中から(三次市和知町)KADOYA裏庭に運びこみました。



③8/27 (日) 石積みのプロに手ほどきをうけ積み上げました。



④8/27 (日) こどもたちもいっしょに石窯作り。ワラと粘土をコネコネコネコネ。



石窯作り：2017年6月～2018年3月 延べ300～350人参加

⑤もののけ原画展 9/25（月）～10/1（日）三次町 旧滝戸工芸 参加者 40 名



急遽「もののけ原画展」を開催した旧滝戸工芸（三次市三次町）へ、数か月後には転居することになるという不思議な巡り合わせ。もののけの仕業かな？

⑥ 音であそぼう！
ママジーナとうたおう！

ママジーナは、シンガーソングライター。2017年4月三次に移住したばかりの子育て真最中のおかあさん。子育て支援センターで、多くのママたちとつながり広げました。参加者は、ママジーナの歌とパーカッションを楽しみました。

参加者：22組40人のおやこ



⑦ LOVE & PEACE
LIVE・十輝と語ろう

まんなかにはろうそくを灯し、ゲームをしたり宇宙にいたり……。十輝くんのトークと歌で、ココロを開放し、はじめて出会ったばかりの老若男女22人がひとつにつながりました。

参加者：22人（小3年生～70代まで）





ライブと石窯作りから、転居することになったKADROYA。
想定もしていなかった引っ越しによって、あたらしい地で「DASA IYA」となり
新たにスタートしました。てんやわんやの引っ越し作業の中でも、また新たに若者が
協力者となってくれ、若者とのつながりの広がりに驚いています。
若者ツナグバ「F o l k s T e a B o o t h」稼働により、また若者とのつな
がりが広がることを楽しみにいっそうはりきって活動したいと思っています。

公益財団法人マツダ財団 御中

「若者×ツナグバ」活動報告書

団体名:府中町地域活動青年団体 志楽蝶

活動名:町おこし及び若者の居場所づくり

活動の内容(日時、場所、目的、内容、参加者等 個々のプログラムごとに箇条書きでお願いします。)

■府中町で行われる行事への参加、または主催

①「児童センターハッピーズ オープニングイベント」への参加 (2017/4/20-21)

・児童センターハッピーズ ・町内施設の行事支援

→ 29年度にオープンした「児童センターハッピーズ」にて開催されたオープニングイベントの運営スタッフとして参加。メンバーの8名が参加し、会場設営や模擬店スタッフ、パーキングスタッフ等の業務を行った。

②「府中音楽フェスティバル」への参加 (2017/8/20)

・府中南公民館 ・町内行事の支援

→ 毎年行われている音楽イベントの運営スタッフとして参加。志楽蝶の参加は今回で4度目となる。メンバーの6名が参加し、会場設営や音響照明スタッフや、受付員等の業務を行った。過去に志楽蝶が制作したポスターが今年のものにも用いられている。

③「府中町立府中中学校」での講義 (2017/9/13)

・府中町立府中中学校 ・生徒への講義

→ 府中町で活動する団体を集め、府中町立府中中学校の生徒(3年生)が考える「府中町活性化の催し」のヒントを探る授業での講義を学級全体に行った。主に志楽蝶の活動内容や団体設立の経緯、団体理念などの内容を説明。設立者であり、志楽蝶ラジオでパーソナリティを務める石田と大中の2人で参加し、持ち前のトークで生徒と一緒に町内活性とは何かを考えた。

④「鹿籠祭り」への参加 (2017/10/14)

・鹿籠神社 ・お神輿担ぎ

→ 毎年行われる秋祭り、鹿籠祭りに今年も志楽蝶として参加した。主な活動内容はお神輿担ぎ。

④鹿籠神社「正月祭り」への参加 (2017/12/31-2018/1/1)

・鹿籠神社 ・スタッフ

→ 毎年行われる正月祭りに今年も志楽蝶として参加した。主な活動内容は参拝客の誘導やその他雑務。

⑤くすのきプラザ「成人式」への参加 (2018/1/8)

・くすのきプラザ ・音響照明スタッフ

→ 毎年くすのきプラザで行われている成人式の音響・照明スタッフとして参加。こちらも参加から4年目となった。過去の成人式実行委員会の参加経験を生かし、技術スタッフのみならず、舞台監督としても役割を果たす。

⑥くすのきプラザ「10周年イベント」への参加 (2018/3/25)

・くすのきプラザ ・音響照明スタッフ

→ こちらも同じく、音響照明スタッフ。これまでと違う点は、ボランティアで行ってきたものが、謝金(団体経費)をいただけるようになった点。これまでの活動を評価していただき、責任を持って、技術スタッフとして業務することとなった。

■府中戦士ツバキマン

①ファッションショーイベント「ニジイロポッケ」でのヒーローショー (2017/7/17)

・club MUGEN 広島市中区薬研堀 1-3 3F ・ヒーローショー出演

→ イベント主催者からの出演依頼で、広島市内で行われたファッションショーイベント「ニジイロポッケ」にてヒーローショーを実施。ショーの内容は大人向けのジョークが織り交ぜられた構成で行われた。セリフの中に府中町をPR するものを含め、地域アピールを行った。

②TV 番組「武井 SOUL」への出演 (2017/9/23)

・水分峡 ・ツバキマンとして番組ゲスト出演

→ TV タレント武井壮がメイン MC を務めたローカル番組「武井 SOUL」のゲストとして番組出演。番組内容は、ツバキマンの育成をと府中町を PR するもの。番組出演をきっかけに、団体のサイトのアクセスが伸び、団体アピールの場となった。

③「つばき祭り」への出演 (2017/10/21)

・空城山公園 ・虐待未然防止キャラクターとして出演

→ 府中町児童福祉課が行なった虐待未然防止の PR キャラクターとして出演。府中町行政からの出演依頼は初めてで、府中町に認めて頂いた瞬間でもあった。これからも出演依頼を頂けるとの事で、今後の飛躍にも期待がかかる。

④安芸津児童センター「子ども祭り」への出演 (2017/10/22)

・安芸津児童センター ・ヒーローショー出演

→ 以前、海田児童センターからの出演依頼があったが、これで府中町外の施設からの依頼は2度目。大きなお祭りのトリとして、ヒーローショーをさせて頂いた。

⑤児童センターバンビーズ「バンバンフェスタ」への参加 (2017/12/9)

・児童センターバンビーズ ・ヒーローショー出演

→ 毎年児童センターバンビーズで行われているイベント、バンバンフェスタにヒーローショーの参加を行なった。ツバキマン誕生から毎年参加させていただいており、我々の中でも演出を大幅に更新する機会ともなっている。

⑥NHK ラジオ番組「歌自慢」への出演 (2017/12/15)

・くすのきプラザ ・番組出場者として出演

→ まちの自慢をした後に歌を披露するという番組。男女対抗チーム戦になっており、ツバキマンとメンバー2人が出演。府中町の自慢として、ツバキマンを選出し、会場で殺陣を披露した後に、オリジナルソングである「ツバキマンのテーマ」を披露。見事優勝を勝ち取り、大きく団体アピールをすることができた。

⑦「椿展」への出演 (2018/3/10)

・府中町歴史民俗資料館 ・スペシャルゲストとして出演

→ 府中町の椿を中心に活動されている団体が主催された「椿展」のスペシャルゲストとして参加した。オープニングを飾ったり、練り歩きを行ったりした。

■若者の居場所づくり

①志楽蝶 BASE OPEN (2017/7/1)

・南区本浦町 ・居場所づくり、事務所

→これまで、志楽蝶は拠点として「児童センターバンビーズ」を利用させていただいておりました。ですが、私たちの生活の都合上、20 時で閉館してしまう公共施設での活動に限界を感じていた。また、さらなる発展のためには、独自の拠点を持つことの必要性を強く感じるように。そこで、長年考案されていた「志楽蝶 BASE」計画を本格的に始動させ、今日に至った。ここでは現在毎日のようにメンバーが訪れ、志楽蝶の今後についてを語り合う、絶好の場所となっている。また、この拠点があったからこそ生まれた企画や事業が多数あり、今後の発展に向けて大きな役割を果たしている。また、メンバー交流として、映画鑑賞会や食事会、新メンバー歓迎会など、拠点がないと出来ないような体験を実現している。拠点があることによって、新メンバーの加入もスムーズで、BASE 完成後に数名の新メンバーが加入している。定期ミーティングも隔週で行なっている。

②夏合宿 (2017/8/12-13)

・江田島青年の家 ・メンバーの交流

→ 毎年開催している、志楽蝶メンバー内での野外活動を今年も開催した。今回は、メンバーの大幅な増員の影響もあり、大掛かりな野外活動を行なった。この野外活動の主な目的は、団体行動やメンバーの交流のみならず、企画・運営能力を鍛えることとしても大きな役割を果たしている。2日間行ったこの行事では今期新しく入って来たメンバーに1日間の企画・運営を全て行ってもらい、その難しさや、やり甲斐を体感してもらった。これにより、今後我々が企画・運営していく行事に前線で活動してもらうことを目標としている。

実施に伴う効果

■府中町で行われる行事への参加、または主催

我々が一番に掲げている「府中町に若い風を。」というスローガンの中、やはり高齢化が進む町内のイベント運営に我々なりの活気をつけることが出来たと感じている。町内の団体や行政からの志楽蝶の認知は広がっており、今年度はそれを大きく実感する年となった。

■府中戦士ツバキマン

今年度、志楽蝶の活動の中でも一番多かったツバキマンとしての出演。中でも大手メディアの出演依頼が多く見受けられ、認知度も大きく上がった年となった。また、行政からの依頼も大きく、団体の認知にも大きな役割を果たしている。また、町外のイベントも大きく、府中町のPRを広く伝えることができた。

■若者の居場所づくり

影響として大きいのはやはり志楽蝶 BASE の OPEN だ。まず、これまでに無かったメンバーとの交流が大きな利点としてあげられる。やはり、年齢差があるメンバー内で、これまででは埋めることが難しかった年齢差の溝を、志楽蝶 BASE は簡単に埋めてくれた。そういった効果から、団体の一体感が一段と大きく生まれた。

また、上記にもあるが、メンバーの増員にも大きな影響を与えた。拠点があることによって、新規メンバーが団体の輪に入りやすい環境が出来上がっており、年度始めではないタイミングでのメンバー増員があった。

最後に、志楽蝶 BASE があったからこそ出来たものもある。この空間をより良く、快適にするために、2人のメンバーが手を組み、アプリ開発や快適な暮らしの為にガジェット(装置)を開発した。この空間があったからこそ見出せた2人の才能の化学反応により、団体の枠を飛び抜け、2018年度に起業をする運びまでになった。まさに、新たな若者の居場所が出来上がったのだ。

苦労した点、今後の課題、発展の方向性など

団体が大きくなるにつれて、舵を取るのが大変だった。また、大きくなるに連れて、団体が行う事の責任も大きくなっていった。今までは、自分たちが思うようにとやってきたが、外部の団体や企業が関わってくると、そうもいかない所だ。そこで、団体内で役割分担を明確にし、仕事の分配を図った。それにより、よりスムーズな動きにすることができた。

府中町でのポジションも確立してきており、今後は志楽蝶の主催イベントや新たな若者の居場所づくりを研究、実行に移せるよう努めていく。